様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：３２６９０
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ１３８９４

研究課題名（和文）「男性不妊」の男性学―男性医療をめぐるメディア言説の研究―

研究課題名（英文）Masculinity Studies of Male Infertility, A Study of Media Discourse on Men's Health Care

研究代表者
倉橋　耕平（Kohei, Kurahashi）

創価大学・文学部・准教授

研究者番号：４０７８３１６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、研究当初の目的の中でも、特に男性不妊をめぐるフィクション（物語）の分析において成果があったと考えている。先行研究でも指摘されてきたように、男性不妊への医療は当事者のスティグマを回避するようになってきた。また当事者たちも情報を入手するようになり、男性性の問題ではなく、夫婦や家族の問題と意識するようになってきた。しかし、男性不妊症が描写されるフィクションの世界（漫画、小説、映画）では、相変わらず男性の問題として描き続けられていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日本は体外受精件数もクリニック数もダントツで世界一であるにもかかわらず、成功率は世界最低水準の20%弱しかない国であるし、妊娠・不妊の知識と肯定的信念は世界最低レベルであることが報告されている。つまり、実態とイメージの間に何らかのミスマッチが生じていることが予想される。本研究が明らかにしたことは、先行する当事者への聞き取り調査と言説（一般知識や物語など）のイメージの間に乖離があるということである。もちろんそのすべてが解明できたわけではないが、男性不妊治療とそのイメージが男性性の回復を主眼としている点にもこの乖離の原因が考えられる。今後はこの乖離をどう埋めていくのかが社会的課題となる。

研究成果の概要（英文）：We believe that this study has achieved some of the initial objectives of the study, particularly in the analysis of fiction (narrative) surrounding male infertility. As has been pointed out in previous studies, medical treatment for male infertility has come to avoid stigma for those involved. Also, as the parties involved have become more informed, they have become more aware that it is a marital and family issue, rather than a masculinity issue. However, it was found that in the world of fiction (manga, novels, and movies) where male infertility is depicted, it continues to be portrayed as a male problem.

研究分野：社会学

キーワード：男性不妊　男性学　メディア　医療　ジェンダー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

男性不妊に関わる社会科学の先行研究は、医療技術史、当事者の調査、ジェンダー研究の３つの分野で進められている。明治期から 1960 年代初頭までの不妊医療は、人口政策や制度設計と随伴して、生殖補助医療が肯定的評価へと転換する際の技術革新と規範の変遷と関連してきた（由井 2015）。当事者調査では、統計把握と実態の聞き取り調査（竹谷 2017）がなされている。またジェンダー研究においては、男性の性的機能の医療化が男性不妊をスティグマ化させ、不妊男性が男性性ヒエラルキーのなかで「孕ませられない男」として劣位化されることを指摘した（田中 2004）。他方で、医療社会学の分野において、薄毛治療、更年期医療、勃起不全、仮性包茎などを対象に、それらの医学的対処の発展が物理的身体状況に対する治療的観点よりもむしろ「男らしさ」との関連において駆動されてきたことが明らかになっている（Conrad 2007）。

２．研究の目的

「背景」のなかで指摘した諸先行研究の潮流のなかでも本研究が対象とするのは、同研究の質的研究の分野であり、特に男性学（男性性研究）の再検討が目的であった。男性学の指摘では、男性不妊症が男性性を「劣位化」させるという側面が確認されたが、医療社会学が指摘したような男性性の「回復」に関しての指摘はなされてこなかった。そのため、本研究では、1990 年代に現れた男性不妊をめぐる言説を対象として、それらが生殖医療の技術や知識と絡みながら、どのように男性性の回復・再強化を正当化してきたのかを問うこととした。つまり、本研究の目的は、90 年代以降に登場した男性不妊をめぐる言説を、男性性の回復と再強化の論理として分析するとともに、誰・何がそうした言説を「欲望」しているのか、メディア機制という視点から明らかにすることである。

３．研究の方法

当初検討した研究の手法は、先行研究の渉猟をはじめとし、以下４つの点を重視していた。

第一課題（計量分析）：対象の恣意性を省き、根拠を得るため、高度不妊治療が登場した 90 年代以降の男性と不妊、男性と精子、メンズヘルスに言及する一般書籍（啓蒙書や解説書、「健康本」）、雑誌、インターネットのサイトから言説を渉猟し、頻出語の傾向と共起ネットワークを KHcoder にて計量分析する。

第二課題（内容分析）：先行研究で示されている当事者の聞き取り調査や医療専門家集団内の言説との異同の検証、男性性と生殖能力、セクシュアリティの語られ方についての検証を通して、メディア言説のフィクション性を実証的に明らかにする。

第三課題（メディア分析）：言説が掲載されているメディアの特性と商業的性質の分析、掲載紙面の分析をし、商業言説としての「男性不妊」が語られている場所（どこで）や形式（いかに）を特定する。

第四課題（総合的分析）：以上を総合的に分析し、男性性の回復をめぐるメディア言説と男性身体の医療化の正当化をめぐって構築される規範を析出する。

４．研究成果

第一課題に対しては、大宅壮一文庫にて検索に引っかかった雑誌記事（約 200 点）をデータ化し、計量分析を施した。しかし、これに関しては先行研究で指摘されてきた内容とほぼ変化のない内容に留まり、結果として分かったことは、男性・不妊・医療（治療）の３点が頻出するという極めて凡庸な成果ということになった。

第二、第三課題については、最終年度に「男性不妊と物語–実証研究とメディア表象の異同に関する一考察–」『人間学論集』（17）として論文を上梓した。研究を進める過程で、同分野のまとまった研究成果（竹家一美『日本の男性不妊』晃洋書房、2021 年）が登場したこともあり、当初の研究目的と重複する部分もあり、研究成果をうまく出せなかったところもあったが、この第二、第三課題については、新奇性を維持することができたので、論文とした。

近年の海外の男性不妊研究が、医療が不妊男性のスティグマを回避するように働き、伝統的な家父長制世界（例えば、中東諸国）においては、生殖技術を使用して子どもを持つことで、むしろ（しっかりと）男性性が維持（回復）されることが指摘されてきている。同様に先述の竹家の研究では、男性にとって男性不妊が「夫婦（家族）」の問題（関係性の語り）として経験されていることが明らかにされた。

しかし、同課題では、当事者ではなくメディア言説や物語（フィクション）のなかで「男性不妊の経験」がどのように描写されるのかを検討の対象にした。得られた知見を簡潔にまとめるならば、そうした作品群は確かに「夫婦（家族）の問題」として描き出す傾向を示しているが、それらが「男性の問題」から完全に切り離されているわけではない、ということになるだろう。語

りを収録するメディアが変化したことによって、当事者の語りから描写するものの認識が前景化することで夫婦の問題に見える側面は確かに増えた。しかし、そもそも男性当事者の口から語られていたスティグマを他の登場人物に代弁させたり、男性が不妊治療の経験を語ることの難しさ、男性不妊をスティグマ化している現象を物語の中心に据えていることは、依然として男性不妊が「男性の問題」という域を出ていないという側面も確認できた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 倉橋耕平	４．巻 vol.24 no.8
２．論文標題 男が「男なるもの」を語らなくて よいところから離れること	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『一冊の本』	６．最初と最後の頁 58-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 倉橋耕平	４．巻 17
２．論文標題 男性不妊と物語－実証研究とメディア表象の異同に関する一考察－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 創価人間学論集	６．最初と最後の頁 85-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関